

○ 各港の特徴や既存施設及びこれらの持つポテンシャルを活かした機能分担を図るとともに、その機能を相互補完し、京浜港として強みを発揮する施設配置とする。

◆ 「京浜港」の3港の特性

東京港

- ・世界的な大消費地への近接性
- ・生産拠点への充実した道路網
- ・首都圏活動を支える商業港

川崎港

- ・冷凍／冷蔵倉庫の集積
- ・ロジスティクス用地へのさらなる拡張性
- ・直背後に総合物流拠点が立地

横浜港

- ・湾口に近くアクセス性が容易
- ・水深が深い天然の良港
- ・関東、東海を含めた広域からの集貨



◆ 「京浜港」の3港の主な機能分担

〈東京港〉

- ・既存の基幹航路ネットワークの受入施設を活用しながら、今後も基幹航路とアジア航路等の拠点機能を担う。
- ・世界的な大消費地である首都圏へ生活関連物資等の流通を支える商業港として、質・量ともに高い港湾物流機能を担う。

〈川崎港〉

- ・埠頭背後に広がる冷凍冷蔵倉庫を含めた豊富な倉庫群の集積を活用し、今後増大するアジアの輸入貨物の取扱拠点を担う。

〈横浜港〉

- ・自然水深を活かした-18mを超える大水深バースの整備により、超大型コンテナ船の受入機能を担う。
- ・既存の基幹航路ネットワークの受入施設を活用しながら、今後も基幹航路をはじめ、世界各方面への定期航路を活かした輸送拠点機能を担うとともに、我が国における国際トランシップの拠点として、北米航路を中心としたトランシップ機能を担う。